



東北大学

報道解禁日時：平成 20 年 3 月 31 日 14:00 以降

報道機関各位

平成 20 年 3 月 31 日
東北大学大学院医学系研究科

フィリピンに新興・再興感染症に関する研究拠点を設置

この度、東北大学大学院医学系研究科はフィリピン国立熱帯医学研究所と共同で新興・再興感染症に関する研究拠点を設置する。

文部科学省は、平成 17 年度より「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」を開始した。これは、国外に研究機関を設置して感染症研究を行い、感染症対策に資する知見の集積および、人材育成を行うためのプログラムであり、平成 20 年度からは当プログラムの一環として東北大学大学院医学系研究科がフィリピンに研究拠点を設置することが決まった。

新興感染症とは、近年新しく認識された感染症で公衆衛生上の問題となるものの総称であり、代表的なものとして鳥インフルエンザ、SARS などが挙げられる。一方、再興感染症とは、既に公衆衛生上の問題とならない程度までに患者が減少していた感染症のうち、近年再び流行しはじめ、患者数が増加したものの総称であり、代表的なものとしては、結核、マラリア、デング熱、狂犬病などが挙げられる。

フィリピンにおけるこれらの感染症は依然として医療分野における大きな問題である。感染症の流行は、一度拡大が始まると交通機関の発達等により世界中に急速に影響を及ぼす恐れがあるため、グローバルな対策が必要である。特にアジア太平洋地域は SARS や鳥インフルエンザの震源地となったこともあり、この地域での感染症流行に対応するメカニズムを早急に整備する必要性が求められている。

東北大学大学院医学系研究科はフィリピンを研究対象地とし、インフルエンザをはじめとする呼吸器ウイルス感染症、薬剤耐性菌、狂犬病、結核を主体として研究を推進していく。いずれも現地のニーズに基づき、実際の対策に寄与できるような研究を中心として行う。

(問い合わせ先)

東北大学大学院医学系研究科 微生物学分野

電話：022-717-8211 FAX：022-717-8212

担当：加藤亮 (katom@mail.tains.tohoku.ac.jp)

佐藤翠 (satom@mail.tains.tohoku.ac.jp)